

コラム

「タックスヘイブンに迫る」(合田寛著) を読んで

小林寿太郎(金融・労働研究ネットワーク会員)

税金ををまったく負担しない大企業

「タックスヘイブンに迫る」(新日本出版社刊)の著者の合田寛さんは1943年に韓国の釜山で生まれ、神戸大学で経済学を研究して、現在は公益財団法人政治経済研究所の理事に就任されている。

この著書はタックスヘイブンという巨大かつ複雑な現象を学問的水準を落とさずしてわかりやすく解説しており、グローバル経済を理解する上で最良のものと言ってよい。

私はこれまでタックスヘイブンについて下記のようなイメージを持っていた。

『マイアミから飛行機に乗り、サンゴ礁とヤシ林の広がるカリブ海の小島につく。あたりの田園地帯はバナナの林の中で、鶏の群れが遊んでいる、のどかな景観が広がっている。ところが島の中心街に一步入ると高層ビルが林立して高級ホテル、レストラン、プライベートバンクの店

舗が並んでいる。

ロシア・マフィア、石油王、カジノ王、中国共産党の首脳など大富豪が札束を詰め込んだ大きなカバンをかかえて、スマートフォンでどこかと連絡をとりながらゾロゾロ歩いている。日本人もいるのでよく見ると、AIJ投資顧問というインチキ会社を経営して、中小企業の年金基金1300億円以上を消滅させた浅川和彦のようである』

つまり、タックスヘイブンは、自分とは無関係な大金持ちや暗黒街の紳士たちの異次元世界というイメージだった。

「タックスヘイブンに迫る」の一部を要約して紹介したい。

年間売り上げ17兆円、毎年3兆円もの利益を上げているアップル社はタックスヘイブンを利用して全く納税していない。しかしこれはアップル社だけではない。

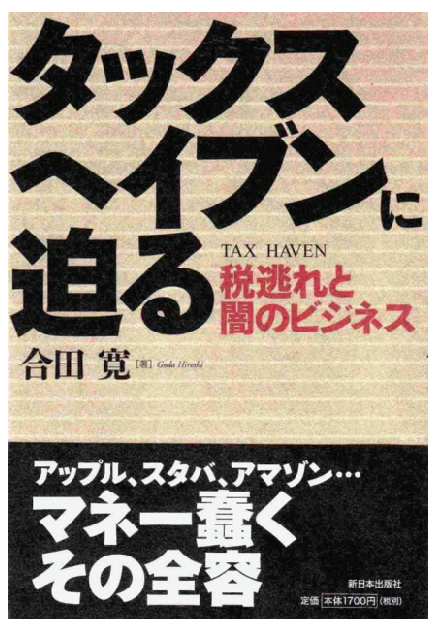
タックスヘイブンというとケイマン諸島やバハマ諸島をイメージするがそれは巨大企業が脱税する全体構造の末端でしかない。

タックスヘイブンは地球規模の重層的なネットワークである。ロンドンのシティを中心とするもの、ニューヨークのウォールストリートを中心とするもの、スイス、オランダ、ルクセンブルクなどヨーロッパを中心とするものという3集団で構成されている。

タックスヘイブンに溜め込まれた富は驚くべきものだ。

ある推計によると21兆ドル(2100兆円)~32兆ドル(3200兆円)となっているから日本のGDPの4~6倍に相当する。この資金の源泉は脱税であり、各国の財政危機を引き起こし、所得の不平等をもたらしている。また有利な投資先を求めて暴走する資金が世界金融危機をもたらしている。

タックスヘイブンに対する市民の批判は世界



的に高まっている。重税に苦しむ市民が巨大企業がタックスヘイブンを利用して全く税を納めていないことに対して行動を起こしている。イギリスのNGO「タックスジャスティスネットワーク」、アメリカのNGO「シティズンフォアタックスジャスティス」などがタックスヘイブンを調査してその有害性を告発している。これらの団体の呼びかけたキャンペーンには、「金融・労働研究ネットワーク」も賛同の署名をしている。

このように厳しく批判されているタックスヘイブンで実際に業務を推進している金融機関はどのようなものか。

ケイマン諸島金融管理局の認可を受けた国際的保険会社である「インベスターズトラスト」のホームページについて一部を要約して紹介する。以下①～④までは宣伝として受け取ることができるが、気になるのは⑤である。

① ケイマン諸島はイギリスの海外領土であり、世界で五番目の銀行センターである。世界トップ50社の銀行のうち40社はケイマン諸島に支店を置く。ケイマン諸島に保有される預金は1兆ドルを超す。

② ケイマン諸島は間接税のみで直接税はない。経済は開放された自由経済であり、政府は安定しており格付け会社ムーディーズがAAAと評価している。

③ ケイマン諸島はコンプライアンスに厳格であり、マネーロンダリング防止も徹底している。業界団体は政府とこれらの問題について協議を重ねている。

④ インベスターズトラストは国際的な保険会社であり世界各国の国際投資家向けに合わせた中長期のユニットベースの投資商品に特化している。

⑤ 重要な法律情報として以下について留意してください。

『このウェブサイト上で提供する情報は…アメリカ合衆国内…への配布やそこでの利用を意図したものではありません。当社の情報の配布・提供は違法となっています…。アメリカ合衆国の国外に限定します。』

これをみると、アメリカ司法当局はインベスターズトラストの国内での営業を禁止しているように見える。このような措置はタックスヘイ

ブンへの市民の批判の高まりが背景にあるのだろうか。

インベスターズトラストの中長期的投資商品とはどのようなものか。

玉川陽介さんという人物がインターネット上でインベスターズトラストの金融商品について次の通り否定的に評価している。

① 25年もUSドルを寝かせておけば、年間3%複利くらいの利回りは得られる。

② 最初資金の半分で長期債を買い、残り半分で株を買えば元本を確保しながらリスク資産に投資することぐらいは、手数料を払わなくても自分でもできる。

③ 金融市場で有利に運用する方法はブローカーに手数料を払わないことに尽きる。上場商品で組まれているポートフォリオに限って言えば、有利な商品というものは無い。すべては市場のルールに従うだけだ。

インベスターズトラストはケイマン諸島を根拠地としているから、税金を払わない効率の良い資金運用をできるが、その恩恵は利用者に届かないようである。この商品を購入しようとする人はその辺をよく考えたほうが良い。